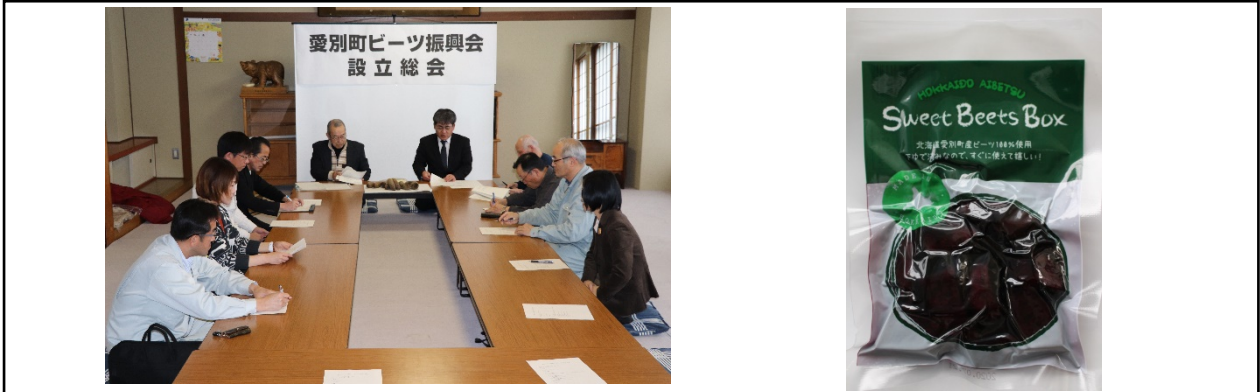


## 地域資源（森林資源）を活用した山村地域の活性化取組事例

- ◆事業実施主体名：愛別町
- ◆事業実施期間：平成30年度～令和2年度
- ◆交付決定額：22,368千円



### ◎主な事業内容と効果

愛別町では平成29年に山村振興計画を改定し、地域特産物振興事業を進めています。山村振興計画は、山村地域における自然の保全や地域格差の是正、地域経済の発展のための振興策をまとめたものです。愛別町にある社会資源を維持していくためには、一定の人口規模が必要であり、町外への転出を抑制し、町内への移住を促進しなければなりません。そのためには、雇用の場の創出、所得の向上が不可欠です。主要産業である農業を中心とした産業の振興により雇用の場を新たに設け、拡大させたりしながら、地域経済が向上することを目指し、国営農地再編整備事業のような生産性そのものを向上させる基盤整備のほか、「地域を挙げて取組む農林産物の加工販売や高付加価値化」についても目標としています。具体的には、「米、きのこ、野菜（ビーツ）などの地域資源を活用した加工品開発に取り組むため、生産者や商業関係者に加え、障がい者就労事業所やシニア世代など多様な関係者による協議の場を設け、外部専門家も定期的に招聘し意見を求めることで、「商品価値の高い加工品開発を目指す」こととしています。

### ◎事業における目標値の設定

加工品開発の財源として、農林水産省の農山漁村振興交付金を活用しています。年度上限額1千万円、3カ年で取組むこととし、補助事業の内容としては、

- ① 外部専門家を入れて3年間で地域特産物加工品を4つ開発する。
- ② 販売する組織を作る。
- ③ 3年目以降に愛別町に物産館をつくるかどうかの検討をする。

当初の計画では、1年目に「ビーツ」の加工品、2年目以降に「きのこ、米、その他農作物」の加工品となっていました。1年目はビーツ、2年目ビーツと米、3年目きのことして取組みを進めています。

### ◎事業のココがポイント

交付金対象期間中の3 ヶ年については、事業取組項目として大きく3 つに分けて実施しており、

- ①地域資源の賦存状況・利用形態等の調査。
- ②地域資源を活用するための組織づくり、人材育成。
- ③地域資源の消費拡大や販売促進、付加価値向上等を図る取組。があります。

②について、町主導で進め4 ヶ年目以降には組織が自主運営出来る体制作りや人材育成を行わなければならない。

③について、商品開発にかかり、試行販売等を通して十分な需要があるかどうか調査を行い、また、付加価値を設けた価格設定を行い、商品販売の利益により組織運営ができるようにしなければならない。

### ◎事業実施において苦労したこと

先述の取組を進める上で、外部専門家を定期的に招聘し意見を求めながら進めることとしていますが、本来は地域の方々の意向に沿った形で、地域資源を活用した商品開発や販売促進、付加価値向上等を図る取組を進めるべきですが、当町が招聘している外部専門家(6次産業化プランナー)は、東京に居住していることもあり、加工商品の委託先や販路拡大地域が道外であったり、取組み内容についても上手く連携が取れず苦慮しました。